

(倫理様式 2-2-1)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が 訪問リハビリテーション利用者に与えた影響に関する研究

1. 研究の対象

2019年9月～2020年11月に訪問看護ステーショングラーチアにおいて訪問リハビリテーションを受けていた方

2. 研究目的・方法

訪問リハビリテーション（リハ）の役割の一つは、利用者自身で主体的に活動できるよう自主練習を指導することです。また、高齢者の閉じこもりを予防し、外出を支援することも重要です。しかし、COVID-19の流行により外出機会の減少が予測されます。外出機会が減少することによって活動量が低下し、それに伴いADLに影響を及ぼしている可能性もあります。今回、COVID-19が訪問リハ利用者に与えた影響を調査し、COVID-19流行下での訪問リハの役割について再考しました。

訪問看護ステーショングラーチアリハビリ部門では、開始時や終了時などに訪問リハビリ担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータに加え、利用者・家族へのアンケート調査の結果を用います。方法は、「緊急事態宣言」発令前後6ヶ月間のFIMのデータとアンケートの調査結果との関連を調査し比較します。

これらの研究は、2020年11月～2021年5月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、生活状況の情報、アンケート結果 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 在宅医療・介護統括局 訪問看護ステーショングラーチア

リハビリテーション部門

研究責任者 福崎将平

住 所：群馬県伊勢崎市大手町1-1

TEL：0270-20-1588 FAX：0270-20-7677